

ドキュメンタリー映画で考える 非戦と積極的平和国家づくり

ウクライナ戦争を機に「明日はわが身」と世界的な緊張と軍備の拡大が進んでいる。

こうしたときだからこそ、真実と進むべき道を見すえたい。

“殺してはならぬ、殺さしめてはならぬ” “軍隊にも兵器にも頼らない”

非戦と非暴力、平和と人権への歩みを！



積極的平和国家のつくり方
コスタリカの奇跡



『沖縄、再び戦場へ』(仮)
スピンオフ作品

10月15日(日) 鳥取市民交流センター

3回
上映

① 9:30~11:30
② 12:00~14:00
③ 14:30~16:30

多目的室2・3

(鳥取市幸町71 鳥取市役所内)

🎟️ 『コスタリカの奇跡 ~積極的平和国家のつくり方~』

🎟️ 『沖縄、再び戦場へ』(仮題) スピンオフ作品

上映協力金500円
をお願いします。

●満員で入場できない場合はご容赦ください ●駐車は市役所駐車場をご利用ください (3時間まで無料)

【お問い合わせ】 ☒ citizen.net.hope@gmail.com ☎ 090-3639-9621 (椋田)

【主催】 じんけん市民ネット希望

【後援】 えねみら・とっとり(エネルギーの未来を考える会)/沖縄と連帯するのとっりの会

憲法9条一世界へ 未来へ とっとり連絡会/憲法擁護・平和・人権フォーラム鳥取県/鳥取県生活協同組合
鳥取市九条の会/ゆずの会/朝日新聞鳥取総局/新日本海新聞社/毎日新聞鳥取支局

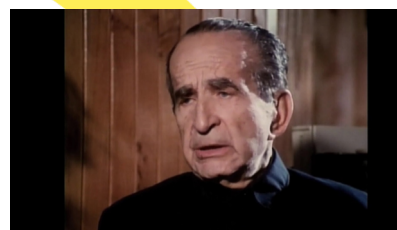
🎬 上映作品紹介

『コスタリカの奇跡 ～積極的平和国家のつくり方～』(字幕) 57分

監督：マシュー・エディー、マイケル・ドレリング

世界には軍隊をもたないことで国の平和を保ってきた国々がある。その一つが中米のコスタリカだ。1948年に「兵士よりも多くの教師を！」と軍隊を廃止。1949年制定の憲法に「恒久制度として軍隊を放棄する」と明記。1983年には永世非武装中立を宣言した。

軍事予算をゼロにしたことで、教育、医療、福祉、環境保護に国家予算を振り分けて、国民の幸福度を最大化する道を選んだ。識字率は97%、平均寿命は80歳を超える。軍隊を持たない代わりに外交や貿易、国際機関との協力を通じて世界の国々と友好関係、信頼関係を築いている。世界有数の危険地帯にありながら、「敵をつくらない」という新しい形の国家安全モデルを構築してきた。原題は『A BOLD PEACE (勇敢な平和)』



『沖縄、再び戦場へ』(仮題)スピンオフ作品 45分

監督：三上智恵

先島の自衛隊基地建設が問題化した4年前から、立ち上がり、声を上げる人びとを追いかけてきた。この国は今まさに、振り落とされそうな勢いで軍国主義へと突き進んでいる。せめて、悩んでほしい。最低限、知ってほしい。現場を体験できる映像を届けますから。(三上智恵監督)

監督がいま制作中の新作ドキュメンタリー映画『沖縄、再び戦場へ(仮題)』は、映画館での公開は早くても2024年春以降になる。しかし、昨年末に「安保関連三文書」が国会審議なく「閣議決定」によって作られた。日米政府の言う抑止力とは「南西諸島にミサイルを並べ、最悪の場合、報復攻撃の戦場になるもやむなし」というもの。戦場になると名指されたも同然の島々では、軍事化が急ピッチで進んでいる。



国際平和デー(9月21日)

国際連合(国連)は、世界の停戦と非暴力の日として、すべての国と人々に、この日一日は敵対行為を停止するよう求めている。そして、この一日の平和がさらに一日ずつ積み重ねられ、最終的に武力紛争によってもたらされる無用の苦痛に終止符を打つことをめざしている。しかし、武器を置くことだけで平和が達成されるわけではない。真の平和を実現するためには、対立の溝を埋め、差別と闘い、世界のすべての人の人権のために立ち上がる必要がある。「積極的平和主義」とはこういうことをいう。

国連加盟国は、官民合同で取り組むことが求められている。

国際反戦デー(10月21日)

1966年(昭和41年)10月21日、日本労働組合総評議会(総評)がアメリカ軍のベトナム戦争介入に反対する「ベトナム反戦統一ストライキ」を実施し、世界中にベトナム反戦を訴えた。

翌1967年(昭和42年)10月21日には、アメリカのワシントンD.C.で10万人を超えるベトナム戦争反対デモ(ペンタゴン大行進)が行われ、世界各地で活動が展開された。

この日は、ベトナム戦争終結後も世界平和実現の行動日になっている。